

佳作

大きくなった自分、 小さくなったランドセル

千葉県 四街道市立中央小学校六年 宮脇 実織

「このランドセルがいい！」

入学前に自分で決めた、こげ茶色とむらさき色のランドセル。悩みに悩んで決めたのをすごく覚えてる。今でも大切に使っているランドセルは、私の宝物だ。

雨の日、雪の日、暑い夏の日や荷物の多い終業式も、六年間共に登下校してきたからこそ思い出はたくさんある。雨でびしょびしょになったり、鳥にふんを落とされたり、ブロックべいにつつかって傷をつけてしまったり。そんなときには私がハンカチなどを使って、水てきをふいたりよごれを落としたりしている。ある時友達に、

「ランドセルきれいだね！」

と言われたときはうれしかった。

夏休みなどの長い期間の休みのときは、ランドセ

ルの中身も何も入っていない状態にし、休けいさせてあげる。そうして新しい学期が始まり、私はランドセルを背負って元気に登校する。

一、二年生の頃はランドセルにあまり慣れていない、中身も重いので帰り道はすごくへとへとになっていたけれど、三年生になった頃にはそれにも慣れ、ランドセルとの登下校がいつの間にか楽しくなっていた。「ランドセルがしゃべるようになったら、おもしろそう!!」と、四年生の時にはそう思いながら下校している日があった。

学校に着くと、ランドセルはロッカーへ。授業中や休み時間には、私はランドセルがロッカーから見守ってくれているような感じがする。

六年生の春、学校に登校しようとしてランドセルを背負った。

「あれ!？」

私はふと思い、あることに気がついた。前までは、ランドセルが大きくて自分が小さかったのに、今ではランドセルが小さくて自分が大きくなっている。

一年生の時にランドセルを背負っている写真を見返すと、やっぱりランドセルは大きく感じた。いつの間にか私は身長もぐんと伸び、知らない間にすごく

成長していたんだと思った。

「だからランドセルが小さく感じたのか！」

そう言いながら私はランドセルを見た。

あと約七か月しか、このランドセルを背負って登下校することができない。私は小学校を卒業したら、ランドセルをバッグや財布にリメイクしてもらいたいと思っている。それまでは、残りの学校生活の登下校を私の宝物のランドセルと楽しい時間にしたい。そして、春になったらランドセルに六年間の感謝の気持ちを伝えたい。

「六年間どんな日もいっしょに登下校してくれて、ありがとう。」